

## 海の向こうに目を向けて

**稲森さん** コロナで留学なども制限されていますが、私は鹿児島と海外とのこれからの交流が気になっています。

**市長** 海外との交流は、これからますます重要性が高まると思っています。アジアを中心に、鹿児島に住む海外の方が増えてくる。また、県外・国外向けの観光振興にさらに力を入れていくので、観光客もどんどん増えてくると思っています。

そこで、姉妹都市などとの交流も改めて進めながら、海外のことをよく知ろうという意識を高めていくことも大事だと思っています。今年、友好都市盟約40周年の中国・長沙市をはじめ、これまで培ってきた各都市との交流を、コロナ下でもしっかりとオンラインなどでつないでいこうと思います。

**稲森さん** これからの海外との交流に、どんなことを期待されていますか。

**市長** 特に若い皆さんに、ぜひ鹿児島で、海外の方をもてなし、受け入れられる人材として活躍していただきたいと思っています。鹿児島のことを知ってPRするには外から見ること

## \ 私たちが対談しました /



**稲森 玲奈さん**  
鹿児島純心女子短期大学  
英語科2年生。令和4年  
新成人のつどい実行委員  
長



**村上 将太郎さん**  
鹿児島大学工学部大学院  
1年生。県内の飲食店応  
援求人マッチングサイト  
「ぐるジョブ」開発

も大事ですので、コロナが落ち着いてきたらどんどん海外へ出て、鹿児島と比較する視点を持つてもらいたいです。稲森さんも、コロナが収まったらぜひ留学を実現してください。

**稲森さん** はい。ありがとうございます。私は海外のいろんなところに行つて、日本文化との違いを理解したいです。それにはまず、鹿児島の食や文化をよく知ることから始めなくてはと思っています。

**市長** まさに、鹿児島の学生さんに伝えたいことです。相手の文化は、自分の文化を知り、誇りを持つことで初めて尊重できるのだと思います。海外に行く前にぜひ、周りに紹介できるぐらい、鹿児島の多彩な魅力を知つて、誇りを持つてほしいです。

**稲森さん** 周囲には、

「鹿児島」って付くだけで魅力を感じるものがたくさんあります。それを県外や海外に持って行き、鹿児島のブランド化をさらに進めていきたいといいと思っています。

**市長** 私もそれをぜひ進めたいと思っています。どう頑張ってもしばらくは国内

の人口は減つていき、それはモノを買う人も減るといことです。だから、まず、海外にそこに無い鹿児島のモノを持って行って、外国の方に買ってもらう良さを知ってもらおう。次に、「本場で食べたい」と鹿児島に来てもらう。そういうことで、事業者の皆さんは稼ぐことができます。そこには、海外と鹿児島を比較して適切に売り込める人材が必要です。若い皆さんに期待しています。



## チャレンジできるまちに

**村上さん** 僕の目標は、鹿児島を盛り上げるため、鹿児島の中で挑戦者を増やすことです。そのためには、起業家など身近なロールモデル(模範になる人)が必要だと思っています。が、スタートアップとかベンチャーとか、挑戦したい若者への支援をどのように行つていかれますか。

**市長** 起業というのはすごく重要です。マーケティングやソーホーかごしまをはじめ、若い人がどんどん挑戦できる環境をつくり、いろいろな面から支援していきたいと思っています。そのため、どんな後押しを実際の起業家の方が望んでいるのか、やる気のある若者と語り合える場をつくり、対話を積み重ねて、どう背中を押していくのか検討していきたいです。京セラの稲盛和夫さんという、起業家のお手本中のお手本と言える方も鹿児島市出身でいらっしやるので、そこを目指して元気な若者が挑戦できるように、私も全力で支えていきたいです。

**村上さん** よろしく願います。それから、子どもたちがいろいろな選択肢を見た上で、進路を決められたらよいと思っています。鹿児島には、挑戦する人を育て輩出する地域性が元々あると思います。自分たちの可能性を広げ、挑戦することを支援していただけるような鹿児島市づくりをお願いしたいです。

**市長** それは私も重要なことだと思っています。まずは、子どもたちが進路を考えるとき

に、いろいろな生き方や、仕事を見る機会をつくつていきたいと考えています。自分の親の仕事ですら昔より身近に見られる機会が減っていると思います。大人の役割として、こういう生き方があるんだというところを子どもたちに見せてあげたいですね。

## 新年の抱負

**村上さん** 自分たちの経験を生かして、ロールモデルになる起業家が育つていくような支援を行つているので、これからもいろいろな人が挑戦しやすい環境を継続してつくつていきたいと思っています。

**稲森さん** 自分の夢をかなえるために、コロナで今までできなかったことに挑戦して、必要なことをしっかりと積み重ねていこうと思います。

**市長** この2022年というのは、若い人を含め幅広い方々が、コロナの次の時代に向かって新たな挑戦を始める1年になると思っています。私もその先頭に立って旗を振り、また力いっぱい後押しをしていきたいと思っています。令和4年ぜひ一緒に前に進みましょう。

